

今後（2022 年度）の調達 WG の検討方針（案）

調達コードやその他ご意見を頂いた事項については、以下のとおりの方針としたいと考えているところ、本日の会合及び6月に予定している持続可能性有識者委員会に以下をお諮りして、今後の検討の方針を決定したい。

●調達コードの策定について

- ・ 今後も東京 2020 大会の調達コードをベースに①5 年経過したことによる社会の変化、②オリンピック・パラリンピックとの事業としての違いを踏まえて調達コードを検討すべきではないか。
- ・ 東京 2020 大会の調達コードのうち議論ができていないものは、①農産品、②水産品、③畜産品、④パーム油であり、基本的には、これらの項目について検討してはどうか。
- ・ これらは主に食品関係であり適用される対象については、東京 2020 大会と大きく異なり大阪・関西万博では、コードの適用を受ける事業者は、数は多く、大小さまざまである※。

※飲食施設としてはラウンジ&ダイニング、ファミリーレストラン、カフェ、ファストフード、フードコート、キッチンカーなどの営業出店を想定。また、メッセなどにおける展示会での試飲食、さらには各パビリオンにおいても飲食品の提供が可能であるため、少なくとも 100 以上の事業者が対象になると想定。

- ・ このため、東京 2020 大会で主に対象となった大規模な事業者を念頭に置いた①最先端の基準と、中小事業者でも②最低限守るべき基準と基準のイメージを二つ念頭に置いて、議論を進めるべきではないか。この二つというのは、ミラノ万博、ドバイ万博の調達コードのように基準と推奨という分け方もありうるが、中小事業者と大規模事業者というような分け方も考えられるのではないか。

●調達コード以外の基準等の策定について

- ・ これまでの調達WGにおいて、食品循環資源の 3R の在り方やプラスチックの使用の削減、リサイクルの在り方について方針を示すべきというご指摘を頂いてきたところ。ただし、これらについては『調達』コード」という名の下では記載しにくい事項もある。
- ・ また、東京 2020 大会と異なり、パビリオン、食品提供等半年間に及び様々な

者が「業」を営むというのも国際博覧会の特徴である。

- ・ このため、一括して「プラスチックを含むごみゼロ、食品廃棄ゼロ、ファッションロスゼロに向けた運営に関する基準（仮称）」を策定することとしてはどうか。なお、この基準には以下のような事項を規定することが想定される。

■プラスチックを含むごみゼロ

- ・ 会場内で使用する食器・容器・カトラリーの素材・サイズ・環境負荷の少なさを担保するための活用すべき認証制度
- ・ 設置するゴミ箱の分別の種類
- ・ 配布するノベルティについての配慮事項
- ・ 販売物品の包装

■食品廃棄ゼロ

- ・ 食品ロスをなくす取組

■ファッションロスゼロ

- ・ ユニフォームに使用を推奨する素材やリサイクルのための取組

- ・ なお、上記の具体的対策については、2022年7月頃に別途設置する資源循環勉強会で検討する。それらの検討結果をご報告したうえでご議論いただきたいと考えている。
- ・ パビリオン内での省エネ設備導入等については、2022年6月頃に別途設置する脱炭素ワーキンググループにて検討する。
- ・ また、第1回WGでもお示ししたとおり、調達コードを実効性のあるものとするため、通報受付窓口（グリーンバンス・メカニズム）の具体的な運用基準の策定に向け検討していく予定。

以上